

梅毒ノ腦脊髄液ニ於ケル Wassermann, Meinicke 並ニ村田諸氏ノ反應ニ就テ

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室 (主任皆見教授)

助手 大道直一

緒 論

梅毒各期ノ腦脊髄液反應ニ就テハ西歐ニテハ、已ニ古クヨリ行ハレシモノニシテ、梅毒各期ハ勿論已ニ其血清陰性期ニ於テ、之ニ變化ヲ認メ、感染後 1—2 箇年ニシテ變化高潮ニ達スル者ナルコトハ一般衆知ノコトニ屬ス。而シテ現今用ヒラルル検査方法トシテハ諸種ノ反應アリ。最近余ノ教室ニ於ケル検査成績ハ同僚江原君ノ發表ニ譲リ余ハ唯 Wassermann 氏反應 (W. R.)、村田氏反應、Meinicke 氏濁濁反應 (M. T. R.) 並ニ M. T. R. ノ變法ニ就テ比較考究セント欲ス。

W. R. ハ言フ迄モナク諸種脊髄液反應中、梅毒性疾患ニ最モ特有ナル反應ニシテ、重要ナル意義ヲ得ラルルモノナリ。古ハ變性梅毒ニノミ特有ナリト認メラレシモ、現今ニテハ中樞神經系ノ梅毒ハ勿論、神經症候ナキ第一期殊ニ血清陰性期ニ於テモ、稀ニ之ヲ認メラレ、其他、第二期梅毒、潜伏梅毒、先天梅毒等ニ他ノ脊髄液反應ト等シク認メ得ラルトノ報告數多アリ。Bruck 氏著梅毒血清診斷學ニ據ルニ、血清陰性期ニテハ、Altmann, Dreyfus, Wechselmann 氏等ハ脊髄液ノ W. R. ハ勿論、他ノ脊髄液諸反應モ陰性ナリトイフモ、Kohrs, Gennerich, Frühwald, Fleischmann, Bruck, Weigeldt 氏等ハ已ニ之ヲ認ムトイフ。而シテ今日ニテハ最早本期ニ脊髄液ノ變化ヲ見ルコトアルハ、多數ノ諸氏ノヨク認ムル所ナルモ、就中 W. R. ノ陽性ニ現ハルルハ比較的ニ少シ。Frühwald 氏ハ 19 例中 1 例、Fleischmann 氏ハ 7.4%、Schön 氏ハ 72 例中 2 例、Boas 氏ハ血清反應陰性ノトキハ脊髄液反應モ陰性ナリトイヘリ。血清陽性第一期梅毒ニテハ Hauptmann 氏ハ 3 例中總テ陰性、Bruck 氏モ數例共陰性、Kohrs 氏ハ 11 例中 1 例、Fraenkel 氏ハ 2 例中 1 例、Wile, Stokes 氏等ハ 6 例中 2 例、Gennerich 氏ハ 44 例中 2 例、Fleischmann 氏ハ 14.8%ニ陽性アリ。第二期梅毒ニテ Ravaut 氏ハ 33 例中 3 例、Bergel, Klausner 氏等ハ 22 例中 3 例、Zaloziecki, Frühwald 氏等ハ 42 例中 23 例、Frühwald 氏ハ 50%、Fraenkel 氏ハ 14 例中 5 例、Kohrs 氏ハ 101 例中 5 例、Stümpke 氏 50 例中 9 例、Werther 氏ハ治療前ノ者ト治療後ノ者トニ分チテ孰レモ 4%、Gennerich 氏ハ 34 例中 3 例、Marcus 氏ハ 33 例中 1 例、Boas 氏ハ 106 例中 6 例、Fleischmann 氏ハ治療ナキ者ニ 12%、治療者ニ 17.3%、Boas, Nave 氏等ハ 3%、Bruck 氏ハ 7 例中 2 例ニ於テ脊髄液反應ノ W. R. 陽性ヲ見タリ。第三期梅毒ニテハ Königstein, Goldberger 氏等ハ一般ニ變化少シトイヒ、Kyrle 氏ハ特ニ W. R. ニ然リトイフ。Ravaut 氏ハ 2%、Gennerich 氏ハ 7 例中 1 例、Kohrs 氏ハ 60 例中 3 例、Fleischmann 氏ハ 12.5%ニ孰レモ W. R. 陽性ヲ見タレド、Boas, Nave 氏等ハ 6 例總テ陰性ナリト。先天梅毒ニテ Gutfeld 氏ハ 155 例中 15%、Kingery 氏ハ 52 例中 4 例弱陽性、11 例強陽性ナリ。Petrov, Sucharjewskaia 氏等ハ 53 例中 4 例ニ陽性ヲ認メシモ、Stümpke, Haas, Kafka 氏等ハ總テ陰性ナリシト。潜伏性梅毒ニテモ、Bergel, Klausner 氏等ハ變化ヲ認メズトイフモ、Gennerich 氏ハ治療ナキ 9 例中 1 例ノ W. R. 陽性ヲ認メ、水銀治療者 24 例中 4 例ノ W. R. 陽性、又水銀ト「サルワルサン」

ノ合併治療者 46 例中 6 例ノ W. R. 陽性ヲ脊髄液反應ニ認ム。Kohrs 氏ハ治療オキ者 34 例中 7 例, Stimpke 氏ハ 49 例中 11 例ノ W. R. 陽性ヲ認メタリ。翻ツテ我邦ノ文獻ニ見ルニ, 近來脊髄液反應検査ノ喧傳サル者アルモ, 其數歐米ノソレニ比シテ甚ダ少ク, 中村, 松本, 田代諸氏ニ加フルニ最近吾教室ヨリ先天梅毒患者ノ腦脊髄液反應ニ就テ發表セル同僚江原君其他數氏アルニ過ギズ。

M. T. R. ハ W. R. ニ比シテ其操作ノ簡單ナルコトニ於テ之ヲ脊髄液反應検査ニ用ヒ得ベキ者ナルコトヲ唱ヘシ人ニ Prochazka, Behrmann 氏等アリ。而シテ尙ホ M. T. R. ト W. R. トハ相當相一致スル成績ヲ示ス者ノ如ク Behrmann 氏ハ之ヲ W. R. トノ比較ニ於テ 38.6% ノ一致率ヲ示セリトイフ。最近 M. T. R. ニ或特殊ノ考案ヲ爲セル所謂 M. T. R. 變法ヲ發表スル人々アリ。而シテ孰レモ變法ノ舊法ニ比シテ成績良好ナルヲ唱ヘル者ニシテ Unterstein 氏ハ 118 例ノ種々ノ疾患ニ就テ檢セル成績ニヨレバ 97% ニ於テ W. R. ト一致セルヲ報告セリ。余ノ行ヘルハ Unterstein 氏法ヲ模倣セル Ludwig Mendlowicz 氏法ニシテ同氏ハ¹¹⁵ 例ノ検査成績ニテ, W. R. ト一致セルハ 107 例, 不一致 8 例ナリトイフ。

村田氏反應ハ其血清反應上ニテハ W. R. ニ優ルトモ劣ラザル成績ヲ有スル者ナルコトハ一般ノ認ムル所ナルモ, 其腦脊髄液反應ニシテノ村田氏反應ニ就テハ今日未ダ一般ノ注意ヲ惹カザル者ノ如ク, 余未ダ江原氏以外ノ文獻ニ之ヲ見ズ。

検査方法

W. R. ハ脊髄液 0.1 cc ヨリ 1 cc 迄ヲ用ヒ, 動性ニテ検査ヲ行フ。

M. T. R. ハ總テ 0.4 cc ヲ用ヒ, 初メ Meinicke 氏原液 1 cc ニ 3% 食鹽水 10 cc ヲ加ヘ, 45°C. ノ水温ニテ 15 分間加温シ, 後同液ヲ検査スベキ脊髄液 0.4 cc ニ, 1 cc ヲ加ヘ, 1 時間後及ビ 24 時間放置シ, 其濁濁又ハ沈降ノ有無ニヨリテ陽性率ヲ決定セリ。尙ホ M. T. R. ノ變法ハ Ludwig Mendlowicz 氏法ヲ用フ。同氏法ハ大體ニ於テ Unterstein 氏法ヲ模倣セシモノニシテ, 初メ 1 cc ノマ氏原液ヲ 5 cc ノ 1% 食鹽水ト混ジテ後ソレヲ 45°C. ニ温メ, 直チニソノ 0.5 cc ヲ脊髄液 0.5 cc ニ混ジ, 20 時間室温放置後檢スルモノニシテ成績ハ M. T. R. ト同ジク判定ス。尙ホ M. T. R. 少量検査ノトキハ 0.1—0.05 cc ノ脊髄液ヲ用フ。

村田氏反應ハ血清反應ノトキト同操作ニテ行ヘリ。

而シテ之等ノ反應ハ, 大體ニ於テ陽性ト, 陰性トニ大別シ, 更ニ陽性ヲ, 強, 中, 弱ノ三者ニ分類セリ。今 W. R. ニ就テ見ルニ強陽性トハ 0.1—0.4 cc ニ於テ陽性ヲ示スモノ, 中等度陽性トハ 0.5—0.7 cc, 弱陽性トハ 0.8—1.0 cc ニ於テ孰レモ陽性ヲ示セル者ヲ示スコトトス。M. T. R. ハ其濁濁, 沈降, 透明ノ有無及ビ度合ニヨリテ強, 中, 弱ニ分チ, 村田氏反應ハ兩液接觸面ノ濁濁環ニヨツテ, 其反應ノ強弱ヲ示スコト血清ニ於ケル場合ト同ジ。

検査成績

I 各期梅毒患者ノ腦脊髄液反應中特ニ W. R. ノ成績ニ就テ

今梅毒各期ノ腦脊髄液反應ニ就キテ余ノ經驗セル 180 例中其 W. R. ノミノ成績ニ就キテ言ヘバ下ノ如シ (第 1 表参照)。

第 1 表 脊髄液ノ W. R. 陽性例

(W. ハ WR, M. ハ M. T. R. ヲ示ス) (表ニハ陽性例ノミヲ表ハス)

姓	年 齡	性	診 斷	血清反應		脊 髄 液 反 應									
				W.	村 田	W.	村 田	M.	マ ス チ ッ ク ス	ゴ ー ル ド ズ ル	ノ ン ネ	パ ン チ ー	ワ イ ヒ プ ロ ッ ト	高 田、 荒	細 胞 數
藤 田	25	合	第二期(禿髮症)	卅卅	卅	+		+	卅	+	-	卅	+	±	26/3
伯 耆	38	合	第三期潜伏微毒	卅卅	卅		卅	卅	卅	卅	+	卅	卅		274/3
德 山	59	合	"	卅卅	卅	卅	卅	+	卅	卅	+	卅	卅	卅	144/3
高 岡	27	合	"	++	+		卅	-	卅	卅	+	卅	卅	卅	171/3
桑 田	32	合	"	卅卅	卅	卅	卅	-	卅	卅	+	卅	+	卅	29/3
藤 本	60	合	"	卅卅	卅	卅	卅	-	卅	卅	卅	卅	卅	卅	104/3
秋 山	40	子	"	++	-	+	卅	-	+	卅	-	±	-		33/3
野 村	40	合	脊 髄 癆	卅卅	卅		卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	+	285/3
寺 尾	45	合	"	卅卅	卅		卅	-	卅	卅	+	卅	卅	卅	61/3
宮 川	24	合	青年性麻痺狂	卅卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	+	卅	+	卅	182/3
青 山	12	合	"	卅卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	374/3
吉 田	10	合	先 天 微 毒	卅卅	卅	卅	+	-	卅	卅	+	+	卅		29/3

第 2 表 脊髄液中 W. R. 村田氏法トノ比較

伯 耆	38	合	第三期潜伏性微毒	卅卅	卅		卅	卅		卅	卅	+	卅	卅		274/3
德 山	59	合	"	卅卅	卅	卅	卅	+	卅	卅	+	卅	卅	卅	卅	144/3
高 岡	27	合	"	++	+		卅	-	卅	卅	+	卅	卅	卅	卅	171/3
"	"	"	"(第2回)	++	+		卅	-	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	174/3
藤 本	60	合	第三期潜伏性微毒	卅卅	卅	卅	卅	+	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	104/3
桑 田	32	合	"	卅卅	卅	卅	卅	-	卅	卅	+	卅	+	卅	卅	29/3
寺 尾	45	合	脊 髄 癆	卅卅	卅		卅	-	卅	卅	+	卅	卅	卅	卅	61/3
宮 川	24	合	青年性麻痺狂	卅卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	+	卅	+	卅	卅	182/3
青 山	12	合	"	卅卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	卅	374/3
吉 田	10	合	先 天 微 毒	卅卅	卅	卅	卅	+	-	卅	卅	+	+	卅		29/3
遠 藤	合	"	"	卅卅	卅	卅	卅	-	卅	卅	+	+	+	+	+	42/3

第3表 脊髄液ノ W. R. ト M. T. R. トノ比較

藤田	25	合	第二期微毒	卅卅卅		+		+	卅	+	-	卅	+	±	26/3
平田	40	♀	"	卅卅卅		-	0.05 cc	卅	+	-	-	+	-	-	1/3
野口	39	合	第三期潜伏微毒	-	-	-		+	+	+	-	+	+	-	4/3
寺尾	45	合	脊髄癆	卅-	卅	+		+	卅	卅	-	卅	卅	±	62/3
大植	2	合	先天微毒	-	-	-		卅	-	-	-	-	-	-	0/3
吉田	10	合	"	卅卅卅		-		+	+	+	-	卅	±	±	52/3
秋山	11	♀	"	-	-	-		+	-	-	-	-	-	-	0/3

第4表 脊髄液ノ W. R., M. T. R. 並ニ村田氏法ノ比較

三船	34	合	第二期潜伏微毒	卅+	卅	卅	-	卅		-	-	-	+	-	7/3	
新見マ		♀	第三期潜伏微毒	-	-		-	-	0.1 cc	+	W.	-	-	W.	-	0/3
宮城	36	♀	"	卅卅卅	卅	卅	+	-	+							
野村	40	合	脊髄癆	卅卅卅	卅	卅	-	卅		卅	卅	卅	卅	+	285/3	
青山	12	合	青年性麻痺狂	卅卅卅	卅	卅	卅	-	卅	卅	卅	卅	卅	卅	+	111/3
"	"	"	"(第3回)	卅卅卅	卅	卅	卅	+	-	-	卅	卅	卅	卅	卅	211/3
宮川	25	合	青年性麻痺狂	卅卅卅	卅	卅	卅	-	-	卅	卅	-	卅	卅	+	
根岸	4	合	先天微毒	卅卅卅	卅		-	-	卅	-	-	-	-	-	1/3	
根岸泰	7	合	"	卅卅卅	卅		-	-	卅	-	-	-	-	±	2/3	
秋山ミ	7	♀	"	-	-		-	-	0.1 cc	+	-	-	-	-	0/3	
龜井	2	合	"	+-	+	-	-	-	卅	-	-	-	-	-		
新見松	5	合	"	-	-		-	-	0.1 cc	+	-	-	+	-	5/3	
織田	13	♀	"	卅卅+			-	-	卅	卅	+	-	卅	+	±	21/3
宮城	15	♀	"	卅卅卅	卅		-	-	卅	+	+	-	+	+	-	0/3
伊賀	25	合	"	卅卅卅	卅	卅	-	+	-		±	-	+	+	-	2/3

第一期微毒

a) 血清陰性期

1例ヲ經驗スレド脊髄液ノ W. R. ハ陰性ナリキ。即チ他ノ脊髄液反應ヲ参照スルニ、コレモ陰性ナリキ。

b) 血清陽性期

2例アレドモ、上記ト同ジク、他ノ脊髄液反應ハ陰性1例、陽性1例アリ。W. R. ハ共ニ陰性ナリ。即チ第一期微毒ニテハ、上述ノ文獻ニテハ W. R. ノ陽性ナル者アリトハ雖モ、余ハ1例

モ之ヲ經驗セザリキ。勿論例症ハ貧弱ナリ。

第二期微毒

12例中1例ニ脊髄液ノ W. R. 陽性ヲ經驗セルノミニテ、他ハ全然陰性ナリキ。1例ノ陽性例ニテハ其血清反應ハ強陽性、爾餘ノ脊髄液反應ハ中等度陽性ナリキ。尙ホ本反應陽性者ハ微毒性禿髮症ヲ有セル患者ニシテ、之ヲ文獻ニ見ルニ Ravaut, Zaloziecki, Frühwald, Cyranka, Gärtner, Königstein, Goldberger, Schönfeld, Kohrs, Kyrle, Fleischmann 諸氏ハ凡テ第二期微毒患者ニテ特ニ禿髮症ヲ有スル者ノ腦脊髄液ニ病的所見ノ生ズルコトヲ稱フルモノニシテ Gärtner 氏ハ其90%ニ於テ本症ヲ見ルトサヘ言フ。余ノ例ニテ偶々1例ノ陽性例ニ禿髮症ヲ見ルハ興味アリ。

第三期微毒

8例中凡テ W. R. 陰性ナリキ。内、睾丸護膜腫2例、鼻護膜腫1例アリキ。之ヲ Bergl, Klausner 氏等ノ Pleozytose 以外ノ諸反應凡テ陰性ナリトノ説ニヨク一致ス。

潜伏性微毒

第二期潜伏性微毒15例中1例ノ W. R. 陽性例ナシ。唯ダ村田氏反應ノミ陽性ノ者1例アレド、コレトモ血清反應ハ陽性ナレド爾餘ノ脊髄液反應ハ陰性ナリキ。

第三期潜伏微毒56例中、6例ノ W. R. 陽性ヲ見ル。即チ血清反應モ、他ノ脊髄液反應モ強陽性ナリキ。Fleischmann 氏ノ成績ニ據レバ、感染後2年以内30.7%、感染後2年33.2%即チ早期潜伏微毒ヨリモ、後期潜伏微毒ニ W. R. 陽性率高キニ、ヨク余ノ成績モ一致ス。

先天微毒

83例中 W. R. 陽性ナル者3例アリ。他ニ M. T. R. 陽性ノ者1例ヲ認ム。2例ハ青年性麻痺狂1例ハ禿髮症ヲ有スル者ナリ。即チ之ニモ禿髮症ト、腦脊髄液反應トノ關係ヲ示ス興味アル一材料タリ。

變性微毒

脊髄液2例共ニ W. R. 陽性ナリ。2例共ニ血清反應及ビ他ノ脊髄液反應強陽性ナリ。即チ以上ノ先天微毒中ノ患者ト言ヒ、凡テ中樞性神經系統ノ疾患アル者ニ腦脊髄液變化ノ著明ナルモノアルハ動カスベカラザル事實ナリ。

II. 腦脊髄液反應トシテノ W. R., 村田氏反應並ニ M. T. R. ノ比較

1) W. R. ト村田氏反應トノ比較 (第2表参照)。

292例中 W. R., 村田氏反應共ニ陽性5例、共ニ陰性277例、即チ96%ノ一致率ヲ見ル。尙ホ W. R. 陽性ニシテ、村田氏陰性ナル者6例ハ共ニ血清反應、其他ノ脊髄液反應モ陽性ナリキ。尙ホ上記兩反應共陽性ナル者ハ血清反應或ハ他ノ脊髄液反應モ共ニ陽性ナリキ。W. R. 陰性、村田氏反應陽性ナルハ1例アリ。

即チ以上ノ成績ヨリ考フルトキハ村田氏反應ハ W. R. ニ比シテ劣ルトモ決シテ其鋭敏度ハ高カラザルガ如シ。

尙ホ當反應ハ兩液接觸面ニテ成績ヲ讀ムトキ脊髓液モ、村田氏液モ共ニ透明無色ナル故ニ其接觸環ノ著明ニ現ハレザル缺點アリ。

ロ) W. R. ト M. T. R. トノ比較 (第3表参照)。

66例中 W. R., M. T. R. 兩反應共ニ陽性2例アリ。共ニ陰性61例ニシテ、W. R. 陽性、M. T. R. 陰性ナルハ1例モナシ。反對ニ W. R. 陰性 M. T. R. 陽性ナル者3例アリ。コノ中2例ハ血清反應凡テ陰性、爾餘ノ脊髓液反應ハ1例ハ弱陽性、1例ハ中等度陽性ナリ。而シテ残りノ1例ハ血清反應強陽性、爾餘ノ脊髓液反應弱陽性ナリキ。

以上 M. T. R. ト W. R. トハ94%ノ一致率ヲ見ルモ、以上ノ成績ヨリシテハ、殊更ニ M. T. R. ガ W. R. ヨリモ鋭敏ナリトハ認メ難シ。

ハ) W. R., 村田氏反應, M. T. R. 三反應ノ比較成績 (第4表参照)。

總數42例中、三反應共ニ陽性ナル者1例モナク、共ニ陰性ナル者28例、W. R. 陽性ニシテ、他ノ二反應陰性ナル者2例アリ。2例ハ血清反應強陽性、爾餘ノ脊髓液反應モ中等度陽性ナリキ。次ニ村田氏反應ノミ陽性ニテ、他ノ二反應陰性ナル者1例アリ。即チ血清反應強陽性ナレド、爾餘ノ脊髓液諸反應陰性ナリキ。而シテ M. T. R. ノミ陽性ニシテ、他ノ二反應陰性ナル者8例、内、5例共ニ血清反應強陽性ナレドモ、爾餘ノ脊髓液反應ハ3例ハ陰性、1例ハ弱陽性、1例ハ中等度陽性、残りノ3例ハ血清反應、爾餘ノ脊髓液反應モ共ニ陰性ナリキ。尙ホ W. R., 村田氏反應共ニ陽性ニシテ、M. T. R. ノミ陰性ナルハ1例モナク、W. R., M. T. R. 陽性ニシテ、村田氏反應陰性2例アリ。2例共ニ血清反應強陽性ニシテ、内1例ハ爾餘ノ脊髓液反應モ強陽性ナリキ。1例ハ不明ナリ。次ニ村田氏反應、M. T. R. 陽性ニシテ、W. R. ノミ陰性ハ1例モナシ。(但シ M. T. R. ハ3例ニ於テハ脊髓液 0.1ccヲ使用セリ)。

即チ以上ノ三反應ヲ比較セル成績ニテ、W. R. ニ比シテ、村田氏反應竝ニ M. T. R. ノ殊更ニ鋭敏ナリトハ思ハレズ。寧ロ鋭敏度ノ低キ感アリ。

ニ) M. T. R. ノミヲ檢セル例。

5例中2例ハ陽性、残りノ3例ハ陰性ナリキ。陽性例2例共ニ爾餘ノ脊髓液反應陰性、血清反應陽性ナリキ。是ハ脊髓液少量ナリシ爲本反應ノミヲ行ヘルナリ。

要スルニ、徽毒各期ノ腦脊髓液反應中、W. R. ハ徽毒ニ、特有ナル反應ナルモ、其陽性率ハ脊髓液爾餘ノ諸反應ニ比シテ (村田氏反應、M. T. R. ヲ除キ)、最後ニ現ハルルモノナルコトハ動カスベカラザル事實ニシテ、尙ホコレト、村田氏反應、M. T. R. トノ比較成績ニテ、兩反應共ニ W. R. ヨリモ鋭敏ナリトハ認メ得ラレズ。

III. 血清反應ト腦脊髄液反應中ノ W. R., 村田氏反應並ニ M. T. R. トノ比較

全例 370 中血清反應及ビ上記脊髄液三反應ノ中孰レカ共ニ陽性ナルハ 37 例, 内 W. R. 陽性, 血清反應陽性 13 例, 村田氏反應陽性, 血清反應陽性 6 例, M. T. R., 血清反應共ニ陽性 10 例, 村田氏反應, W. R. 並ニ血清反應陽性 4 例, W. R., M. T. R. 並ニ血清反應陽性 4 例ナリ. 次ニ血清反應及ビ三反應共ニ陰性ナル者 113 例, 血清反應ノミ陽性, 脊髄液ノ三反應陰性 218 例ナリ. 脊髄液反應中 M. T. R. ノミ陽性ニシテ, 血清反應陰性ナル者 2 例アリ. 而シテ W. R. ノミ陽性, 血清反應陰性ナル者ハ 1 例モナシ.

以上血清反應ト腦脊髄液反應中 W. R., 村田氏反應及ビ M. T. R. ハ大體ニ於テヨク一致スルモ必ズシモ, 平行スル者ニ非ズ. 尙ホ血清反應陰性ニシテ, 腦脊髄液反應ノ陽性ニ現ハルル者上記三反應ノミニテモ之ヲ認ムル以上, 他ノ腦脊髄液諸反應ニテハ一層多キハ想像シ得ル所ナリ.

因ニ W. R. ハ其操作方法區々ナルヲ以テ其陽性率ガ諸家ニ據リ一定セザルハ止ムヲ得ザル所ナリ. M. T. R. 及ビ村田氏反應ハ血清反應トシテハ W. R. ニ優ルガ如キモ, 上述ノ成績ニテハ脊髄液反應ニ應用スル價値少キモノト思惟ス.

IV. M. T. R. ト M. T. R. 變法トノ比較成績及ビ M. T. R. ノ少量検査成績ニ就テ

M. T. R. ヲ模倣セル Unterstein 氏法ヲ更ニ工夫セル Mendlowicz 氏法ヲ基礎トシテ余ノ行ヘル 50 例ニ就テ, 其比較成績ヲ見ルニ, 變法ト舊法トノ成績一致セルハ 36 例, 残りノ 14 例ハ不一致例ナリ. 即チ 72% ノ一致率ヲ見ル. 今一致例ニテ, 兩者共ニ陰性ナル者 35 例, 兩者共ニ陽性ナル者 1 例ナリ. 不一致例 14 例中, 舊法陰性ニシテ, 變法陽性ナル者 14 例ニシテ, 反對ニ舊法陽性ニシテ變法陰性ナルハ 1 例モナシ. 前者ノ 14 例ニ就テ, 之ヲ仔細ニ觀察スルニ爾餘ノ脊髄液反應ノ陽性ナル者 3 例アリ. 他ノ 11 例ハ凡テ陰性ナリキ. 尙ホ之ヲ W. R. ト比較スルニ, W. R. 陽性ナル者 1 例モナク, 凡テ陰性ナリ. 尙ホ新舊兩法共ニ陰性ナル者 35 例中, W. R. 陽性ナル者 2 例アリ. 内 1 例ハ村田氏反應モ陽性ナリキ.

次ニ W. R. トノ比較成績ヲ見ルニ, 全例 50 例中, W. R. ト M. T. R. ノ兩法(舊, 變法)共ニ陰性 35 例ニシテ, W. R. ト M. T. R. 兩法共ニ陽性ナル者 1 例アリ. 残りノ 14 例中, M. T. R. ノ舊法ト W. R. 共ニ陽性ニテ, 變法ノ陰性ナル者 1 例モナク, M. T. R. ノ舊法, 變法共ニ陽性, W. R. 陰性 1 例モナシ. M. T. R. ノ舊法陰性ニシテ, M. T. R. ノ變法及ビ W. R. 陽性ナル者 1 例モナシ. 尙ホ M. T. R. ノ變法ノミ陽性, 舊法並ニ W. R. 陰性 14 例アリ. W. R. ノミ陽性, M. T. R. ノ舊, 變兩法共ニ陰性ナル者 1 例アリ.

M. T. R. ノ検査ニ際シテ偶々其少量ヲ用ヒテ檢スル機會ニ遭遇セシニ, 普通量 0.4cc ニテハ陰性ノ者ガ却テ少量 0.1—0.05cc ヲ用ヒシ時陽性ノ成績ヲ得シモノアリ. 今検査全例 18 例ニ就テ見ルニ, 此中陽性ニ現ハレシハ 6 例ニシテ, 残りノ 12 例ハ陰性ナリキ. 換言スレバ M. T. R.

ノ普通量トハ66%ノ一致率ヲ見ルコトナル。6例ノ陽性例中1例ハ已ニ0.05ccニテ陽性ヲ示セリ。6例中1例ノ血清陽性ヲ除キテ他ハ凡テ、血清反應モ、爾餘ノ脊髄液反應モ陰性ナリ。由是觀之M. T. R.ノ少量ニテ陽性ニ現ハルルハ、サシタル意義モ認メ難シ。サレド普通量ニテ陰性ノ者ガ、普通量以下ノ量ニテ陽性ニ現ハレシハ何故カ、其説明ハ解釋ニ苦シムモノナリ。

脊髄液検査ハ皮膚科領域ニ於テハ其W. R.ノ現ハルルコト比較的少キ故、W. R.ヲ唯一ノ指標トナシ得ザルモノニシテ、他ノ反應ヲ参照スベキモノナルモ、前記ノ如ク、余ハ諸反應トM. T. R.及ビ村田氏反應トヲ比較シテ其價値少キヲ斷言スルモノナリ。

結 論

- 1) 血清反應ト腦脊髄液反應中殊ニW. R., 村田氏, M. T. R.ノ三反應トハ必ズシモ平行スル者ニ非ズ。
- 2) 腦脊髄液反應中、W. R.ノ各期微毒ニ現ハルル陽性率ハ次ノ如シ。
 - イ) 第一期(血清陽性, 陰性兩期共ニ)微毒3例中1例モナシ。
 - ロ) 第二期微毒12例中1例ニ之ヲ認ム。
 - ハ) 第三期微毒6例中1例モナシ。
 - ニ) 潜伏微毒ニテ早期15例共ニ陰性, 晚期56例中6例ニ陽性アリ。
 - ホ) 先天微毒83例中3例陽性, 此外ニ1例M. T. R.ノ陽性例アリ。
 - ヘ) 變性微毒2例共ニ陽性。
- 3) 早期潜伏微毒ニ比シテ、後期潜伏微毒ノ方脊髄液變化著明ナル者多シ。
- 4) 中樞神經系統ノ微毒患者ニハ脊髄液ノW. R.陽性ニ現ハルル者多シ。
- 5) W. R.ニ比シテ、M. T. R.並ニ村田氏反應ハ腦脊髄液反應ニ於テハ、サシテ鋭敏ナラザルガ如シ。
- 6) M. T. R.ニテ舊法モ、變法(Untersteiner氏法)モ、腦脊髄液反應トシテハ、其血清反應ニ於ケルガ如キ意義ヲ認メ難シ。
- 7) M. T. R.ノ變法ハ舊法ニ比シテ鋭敏トハ云ヒ難シ。(2. 5. 30. 受稿)

文 獻

- 1) Bruck, Serodiagnose d. Syphilis. II. Aufl. 2) Behrmann, Dermat. Wochenschr. Bd. 50, Nr. 23.
- 3) 江原, 皮膚科泌尿科雜誌. 第27卷, 第3號. 4) Gutfeld, Archiv. f. Kinderh. Bd. 75, H. 1, 1925.
- 5) Kingery, Journ. of Americ. med. Asscc. Vol. 76, No. 1, 1921. 6) Königstein, Archiv f. Derm. u. Syphil. Bd. 138, S. 137.
- 7) Mendlowicz, Deut. med. Wochenschr. Nr. 48, 1926. 8) 松本, 皮膚科泌尿科雜誌. 第26卷, 第5號.
- 9) 中村, 皮膚科泌尿科雜誌. 第24卷, 第10號. 10) Petrow u. Sucharjewskaia, Dermat. Wochenschr. Bd. 82, Nr. 9, 1926.

Kurze Inhaltsangabe.

WaR., M.T.R. und Muratasche Reaktion im Liquor der Syphilis.

Von

Naoichi Omichi.

Aus der Universitäts Hautklinik in Okayama.

(Vorstand: Prof. Dr. S. Minami.)

Eingegangen am 30. Mai 1927.

WaR. im Liq. verhält sich wie folgendes: bei 3 Fällen im primären Stadium negativ; unter 12 Fällen im sekundären Stadium nur bei einem Fall von Alopecia specifica positiv; bei 6 Fällen im tertiären Stadium und bei 15 frühlatenten Fällen alle negativ; unter 56 spätlatenten Fällen bei 6 Fällen positiv; unter 83 angeboren luischen Fällen bei 3 Fällen positiv; und bei 2 Fällen von Tabes dorsalis positiv.

Muratasche Reaktion und M.T.R. sind zwar empfindlich als Seroreaktion, jedoch gilt dies der Liquorreaktion wenig. Die Untersteinsche Modifikation der M.T.R. ist ebenso wenig empfindlich bei uns.

